

令和5年度三島二次医療圏病院連絡会結果（概要）

開催日時：令和5年12月19日（火） 場所：茨木保健所 5階大会議室

出席病院：別添一覧

1 地域医療構想の推進に関する意見

特になし

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

（1）公立・公的病院

●みどりヶ丘病院・茨木みどりヶ丘病院

（病院への意見）

- ・高槻市のみどりヶ丘病院と茨木市の茨木みどりヶ丘病院を再編統合し、茨木みどりヶ丘病院の急性期機能を強化することについて、圏域内での病床の移動は可能だと思うが、茨木市内の病院の急性期病床稼働率は高くなく、急性期医療に関する需要があるのか疑問。
- ・看護師、介護士等の確保にどこも困っている。再編にかかる医療スタッフの確保については、既存の病院への影響が大きいため、周辺の医療機関から確保することがないよう、配慮を望む。

（病院の回答）

- ・茨木市の救急搬送患者は、市外の病院に流れている印象がある。市内で救急医療を完結できるよう地域貢献していきたい。

●第一東和会病院・東和会いばらき病院

（病院への意見）

- ・昨年度は16床を急性期に転換、回復期に27床転換することで合意となった。今年度、43床を急性期に転換する計画になっているが、どういうことか。

（病院の回答）

- ・今年度、三島圏域において、急性期は実数、割合とも不足している機能となり、転換の検討を必要とする機能として府の見解が示されていたので、43床をすべて急性期に転換する計画に変更した。

（事務局の意見）

- ・急性期は今年度、高度急性期の病床が増加する等の影響により、不足する機能となったが、回復期の方がより不足が見込まれる機能となっているので、転換の検討にあたっては回復期を第一にしていきたい。

(2) その他、民間病院等

特になし

3 その他

【茨木市誘致病院事業について】

- ・茨木市誘致病院事業は、みどりヶ丘病院の再編統合による、茨木市内の急性期病床の増加は見込んでいないため、内容の再検討が必要ではないか。

【転院調整について】

- ・急性期から回復期、慢性期への転院は、各病院とも連携先があり比較的スムーズである。また地域医療連携室が機能していることも大きい。
- ・高齢者の場合、在宅復帰に向けたポストアキュート機能を必要とする患者が多い。急性期の稼働率を上げるためにも回復期病床の充実が必要である。

【救急応需について】

- ・圏域内の応需率は府内で一番高く、各々診ることができる患者に対応できているが、発熱患者の受入れに未だ困ることが多く、一部の医療機関に負担がかかっている。
- ・若い医師の場合、専門外分野の対応について不安があることにより患者を断ることが多く、地域においてどのようにバックアップしていくか考えないといけない。

【看護師等人材確保について】

- ・ワークライフバランスを重視する看護師が増え、どこも看護師不足が慢性化している。
- ・規模の小さい病院では、教育・経験に限られる。
- ・若い看護師は、コロナ禍で看護師教育の一番大事なコミュニケーションが実習で省かれていたため、コミュニケーション能力が低く、患者とのコミュニケーションがストレスで離職する傾向があるのではないかと。圏域内の病院間で人材の情報交換システムや、地域で教育するシステム等、看護師が定着できるような地域連携の仕組みが必要である。
- ・厨房・清掃等の職員も高齢化しており、今後の人材確保に課題がある。